

にまたのさ、ひとよめり、股の小間といふ義なるべし。○中 跨は越也、足過也と注せる義にや、

〔倭訓栞中編十九〕はちか。俗に跨をいふ、またがるの轉也。

〔新撰字鏡足〕蹊退難反、平、徑也、徂行也。往來也、阿留久、

〔類聚名義抄足〕蹊阿留久。〔同五〕步蒲故反 ヲユム ヲク ヲリク。

〔書言字考節用集九〕步アリク 歩アリク 禹オホクダニ南史陳顯達傳、矢中、左目而蹙不出、潘軀善禁、先

〔名物六帖人事四〕步カテアル先進遺風、歸至里。禹步オホクダニ以釘釘柱禹步オホクダニ氣釘オホクダニ即出、乃禁目中蹙出之、

〔釋名三〕姿容、兩脚進曰行、行抗也、抗足而前也。

徐行曰步、步捕也、如有所伺、捕務安詳也。

〔倭訓栞前編二〕ありく 日本紀に歩行、又遊行をよめり、有行の義成べし、新撰字鏡に蹊をあるく

とよめり、往來也といへり、古事記の歌に、ありた、し、ありかよはせと見えたるも、此義也といへ

り、薩州にては、さるくといふ。

〔倭訓栞中編一〕あゆむ 歩行をいふ、足緩の義成べし、源氏にあゆまひとも見えたり、まひ反み也、

〔皇都午睡三編上〕上方で買て來るを江戸にては買て來る、○中 行を歩む、

〔日本書紀神代〕是時其子事代主神遊行、在於出雲國三穗三穗此云美保之碕、以釣魚爲樂、

〔日本書紀雄略十四〕元年三月是月立三妃、○中 次有春日和珥臣深目女曰童女君、生春日大娘皇女、高橋

女皇童女君者、本是采女、天皇與一夜而娠、遂生女子、天皇疑不養、及女子行歩、天皇御大殿物部目大連

侍焉、女子過庭、目大連顧謂群臣曰、麗哉女子、○中 徐步清庭者、言誰女子、天皇曰、何故問珥、目大連對

曰、臣觀女子行歩、容儀能似天皇、

〔今昔物語二十八〕左京大夫□□付異名語第廿一